

第4章 業務概要

1 事業推進課

1.1 庶務・企画

- (1) 所の庶務・維持管理
- (2) 川崎市環境総合研究所有識者懇談会・事業等連絡調整会議の開催
- (3) 研究所職員向け研修・研究発表の統括
 - ・安全衛生教育研修（2018年4月6日）
 - ・公用車（電気自動車）研修（2018年4月6日、6月28日）
 - ・高圧ガス保安講習会（2018年6月12日）
 - ・薬品講習会（2018年7月20日）
 - ・メンタルヘルス講習会（2018年8月23日）
 - ・所内研修会（2018年10月11日、11月5日）
 - ・研究計画立案・書き方講習会（2018年12月20日）
- (4) 研究所年報刊行、ホームページ管理

1.2 環境教育・学習業務

- (1) 環境学習教室等のイベントの開催

ア オープンラボ 2018

環境月間（6月）の事業として、環境問題に関する体験学習と施設公開を実施した。

イ NPO 法人等多様な主体と連携した環境教育の実施

市民団体や企業などの多様な主体と連携して環境教育を行うことを目的に、2013年度より委託事業を実施している。2018年度は特定非営利活動法人鶴見川流域ネットワーク及びNPO 法人とどろき水辺が受託し、次の講座を実施した。

- ・研究所の研究成果を活用した環境科学教室
 - (ア) 子供と保護者を対象としたこども環境科学教室（1回）
 - (イ) 夏休み環境科学教室（全3回）
- ・研究所の立地条件を活かした多摩川河口干潟の生きもの観察会
 - (ア) 小学生以上を対象とした干潟の生きもの観察会（全8回）
 - (イ) 多摩川河口の野鳥観察会（1回）



こども環境科学教室



夏休み環境科学教室 1



夏休み環境科学教室 2



干潟の生きもの観察会



野鳥観察会

ウ 環境セミナー

市民及び職員を対象に水、大気、都市環境等の分野を学ぶ講座の実施。2018年度は4回実施し、第1回「～最近ニュースでよく聞く『2019年問題』、『ブラックアウト』って何?～」(報告者:富士通株、環境総合研究所)、第2回「川崎市と瀋陽市(中国)のPM2.5共同研究成果報告会」、第3回「国際貢献の取組」の成果報告(報告者:菅沼研究員、米田研究員、小野研究員)、第4回「産学公民連携共同研究事業」の成果報告(報告者:東京薬科大学、富士通株、工学院大学、東京都市大学、信号器材株)の講義を実施した。



環境セミナー

エ 関係機関との協働事業の実施

夏休み多摩川教室、キングスカイフロント夏の科学イベントへの出展



夏休み多摩川教室1



夏休み多摩川教室2



キングスカイフロント夏の科学イベント

オ その他

環境総合研究所環境学習学生サポーター制度の開始。(登録12名)

(2) 学校の体験授業の受け入れ

小・中学校等からの体験授業の依頼による環境学習の実施



子母口小学校総合的な学習の時間



旭町小学校総合的な学習の時間



殿町小学校総合的な学習の時間

2018年度環境教育・学習事業概要一覧

No.	事業名	実施日	実施概要	対象及び当日参加人数
1	エコ暮らしこフェア	5月20日	環境に配慮した生活を楽しみながら学んでもらうことを目的に、環境局及び川崎フロンターレ等が共催する事業で、「つくろう！瞬間冷え冷えバック」のブースを運営。省エネ地球温暖化対策として注目された瞬間冷却材を尿素と水の化学反応を利用して参加者が手作り。	小学生以上 47名
2	オープンラボ2018	6月14日	「ムラサキキャベツで酸性・アルカリ性を調べてみよう」をテーマに、小学4～6年生を対象とした科学実験教室を開催するとともに、環境総合研究所の業務内容を広く理解してもらうための施設見学を実施。(定員：50名)	小学4～6年生 30名
3	第1回干潟の生きもの観察会	6月30日	多摩川河口干潟に生息している生物や干潟の浄化機能 講師：榎本正邦（環境研究家）・江良弘光（サイエンスグラフィックイラストレーター）	小学生以上 65名
4	市立小倉小学校総合学習	7月2日	多摩川河口干潟の生きもの観察（講師：多摩川クラブ）及び研究所の環境学習用冊子「水辺の生きもの」による環境学習を実施。	小倉小学校5年生 123人
5	市立旭町小学校総合学習	7月4日	「川崎の環境について」をテーマに、班に分かれ、環境総合研究所について説明と見学、及び大気汚染の状況を調べるマツの葉の気孔観察実験を実施。	旭町小学校5年生 80名
6	こども環境科学教室 「多摩川中流域の生きもの観察」	7月8日	「多摩川中流域の生きもの観察」をテーマに、多摩川等々力河川敷においてガサガサによる生きもの発見と水辺の生きもの観察を実施。(定員：60名) 講師：榎本正邦（環境研究家）・江良弘光（サイエンスグラフィックイラストレーター）	小・中学生とその保護者 69名
7	市立東大島小学校総合学習	7月10日	多摩川河口干潟の生きもの観察（講師：多摩川クラブ）及び研究所の環境学習用冊子「水辺の生きもの」による環境学習を実施。	東大島小学校5年生 50名
8	市立殿町小学校環境学習	7月12日	多摩川河口干潟の生きもの観察（講師：環境総合研究所・NPO法人鶴見川流域ネットワーク）及び研究所の環境学習用冊子「水辺の生きもの」による環境学習を実施。	殿町小学校3年生 65人
9	第2回干潟の生きもの観察会	7月14日	第2回は「干潟ってなんだろう？～干潟のいきものを知ろう、カニのすみわけ～」をテーマに生きもの発見・観察と二枚貝の水質浄化実験を実施。(定員：60名) 講師：榎本正邦（環境研究家）・江良弘光（サイエンスグラフィックイラストレーター）	小学生以上 43名
10	夏休み多摩川教室	7月24日 25日	多摩川の水質や自然環境等～持続的に興味を持ってもらうことを目的に多摩川流域協議会が開催する夏休み多摩川教室において、関係部署とともに「川の中の生きものコーナー」を実施。川の中の魚や底生生物などを採取し、顕微鏡で観察を実施。	一般775名 (312+463) (全体2500名)
11	第3回干潟の生きもの観察会	7月27日	第3回は「干潟の生きもの～カニのダンス～」をテーマに生きもの発見・観察と二枚貝の水質浄化実験を実施。(定員：60名) 講師：榎本正邦（環境研究家）・江良弘光（サイエンスグラフィックイラストレーター）	小学生以上 26名
12	第4回干潟の生きもの観察会	7月30日	第4回は「干潟の生きもの観察とスケッチ」をテーマに生きもの発見・観察と二枚貝の水質浄化実験、採取したカニ等のスケッチを実施。(定員：60名) 講師：榎本正邦（環境研究家）・江良弘光（サイエンスグラフィックイラストレーター）	小学生以上 30名
13	キングスカイフロント 夏の科学イベント	8月1日	「殿町国際観測拠点キングスカイフロント」にて、立地研究機関等によるイベント「キングスカイフロント夏の科学イベント」を実施。環境総合研究所は、「研究所探検」及び「作ろう！瞬間冷え冷えバック」等のブースを担当。	一般120名 (59+30+30) (全体2500名)
14	夏休み環境科学教室 テーマ1	8月3日	「私たちの暮らしと東京湾の水質を考える」をテーマに、港湾局の船による川崎港の見学と赤潮の原因となるプランクトン等の顕微鏡観察及び研究所の見学を実施。(定員：各40名) 講師：岸由二氏（鶴見川流域ネットワーク）	小学4年～中学生とその保護者 36名
15	星空ウォッチング in キングスカイフロント・夏	8月3日	星空観察を通して、大気環境について考え、身近な環境保全活動へのきっかけとして、「かわさき宙と緑の科学館」と共同で開催。夏の星空に関する解説を実施。(定員：70名) 講師：國司眞氏（かわさき宙と緑の科学館）	小学生以上 54名

16	夏休み環境科学教室 テーマ2	8月7日 午前	「見えない空気を調べてみよう」をテーマに、空気の成分や性質に関する実験や大気汚染を学ぶために物の燃焼に関する実験を実施。(定員:各50名) 講師:小林範和氏(鶴見川流域ネットワーク)	小学4年~中学生 とその保護者 20名
17	夏休み環境科学教室 テーマ2	8月7日 午後		小学4年~中学生 とその保護者 7名
18	第5回干潟の生きもの観察会	8月10日	第5回は「干潟の生きもの観察とスケッチ」をテーマに生きもの発見・観察と二枚貝の水質浄化実験、採取したカニ等のスケッチを実施。(定員:60名)講師:榎本正邦(環境研究家)・江良弘光(サイエンスグラフィックイラストレーター)	小学生以上 20名
19	第6回干潟の生きもの観察会	8月13日	第6回は「干潟の生きもの観察とスケッチ」をテーマに生きもの発見・観察と二枚貝の水質浄化実験、採取したカニ等のスケッチを実施。(定員:60名)講師:榎本正邦(環境研究家)・江良弘光(サイエンスグラフィックイラストレーター)	小学生以上 31名
20	第7回干潟の生きもの観察会	9月2日	第7回は「干潟の生きもの観察とスケッチ」をテーマに生きもの発見・観察と二枚貝の水質浄化実験、採取したカニ等のスケッチを実施。(定員:60名)講師:榎本正邦(環境研究家)・江良弘光(サイエンスグラフィックイラストレーター)	小学生以上 53名
21	市立殿町小学校環境学習	9月7日	多摩川河口干潟の生きもの観察(講師:環境総合研究所)及び研究所の環境学習用冊子「水辺の生きもの」による環境学習を実施。	殿町小学校3年生 26人
22	第8回干潟の生きもの観察会	9月9日	第8回は「干潟の生きもの観察とスケッチ」をテーマに生きもの発見・観察と二枚貝の水質浄化実験、採取したカニ等のスケッチを実施。(定員:60名)講師:榎本正邦(環境研究家)・江良弘光(サイエンスグラフィックイラストレーター)	小学生以上 53名
23	市立藤崎小学校総合学習	9月10日	多摩川河口干潟の生きもの観察(講師:多摩川クラブ)及び研究所の環境学習用冊子「水辺の生きもの」による環境学習を実施。	藤崎小学校5年生 120人
24	コモレビテラスでの こどもエコイベント 「環境科学で遊んで学ぼう！」	10月9日	10月9日のかわさき家庭と地域の日に川崎駅コモレビテラスで実施した親子で楽しむ環境イベント。「水素で車を走らせよう!」、「エコすごろくでエコ博士!」、「科学者なりきり撮影」、「干潟の生きものみつけ」、「エコクイズ」を実施	子ども 80人
25	市立子母口小学校総合学習	11月20日	「川崎の水素社会」、「環境総合研究所の視察見学」、「松の葉観察」を実施	子母口小学校5年生 173人
26	星空ウォッチング in キングスカイフロント・秋	11月22日	星空観察を通して、大気環境について考え、身近な環境保全活動へのきっかけとして、「かわさき宙と緑の科学館」と共同で開催。秋の星空に関する解説を実施。(定員:70名) 講師:弘田澄人氏(かわさき宙と緑の科学館)	小学生以上 28人
27	こども環境科学教室 「多摩川河口の野鳥観察会」	12月9日	多摩川河口に生息する野鳥及び双眼鏡の使用方法など野鳥観察の予備知識についての講義及び観察を実施。(定員:60名)	小学生以上 36名
28	市立殿町小学校環境学習	1月28日	殿町小学校5年生の総合的な学習の時間として、地球温暖化に関する講義及び燃料電池自動車体験学習を実施。	殿町小学校5年生 90名
29	星空ウォッチング in キングスカイフロント・冬	2月1日	「かわさき宙と緑の科学館」と共同で開催し、すばるやオリオン大星雲に関する解説及び天体望遠鏡での星空観察を実施。(定員:70名) 講師:國司眞氏(かわさき宙と緑の科学館)	小学生以上 77名
30	2018 環境セミナー (第1回)	12月21日	「~最近ニュースでよく聞く『2019年問題』、『ブラックアウト』って何?~」(報告者:富士通株、環境総合研究所)	一般55名
31	2018 環境セミナー (第2回)	1月17日	「川崎市と瀋陽市(中国)のPM2.5共同研究成果報告会」	一般68名
32	2018 環境セミナー (第3回)	3月18日	「国際貢献の取組」の成果報告(報告者:菅沼研究員、米田研究員、小野研究員)(定員:50名)	一般28名
33	2018 環境セミナー (第4回)	3月20日	「産学公民連携共同研究事業」の成果報告(報告者:東京薬科大学、富士通株、工学院大学、東京都市大学、信号器材株)(定員:50名)	一般43名
34	かわさきエコ暮らし未来館 バスツアー	3月27日	かわさきエコ暮らし未来館主催による環境関連施設を巡るバスツアー。環境総合研究所ではアーカイブスペースの見学と燃料電池車体験コーナーを実施。	一般40名
35	学生サポーター	通年	研究所の環境学習のイベント・講座等の当日の運営補助の学生ボランティア。	登録学生 12名 延べ10回

(3) 教材の活用

- ア 環境学習用教材（すごろく型エコライフゲーム等）の貸出
- イ 環境学習用冊子等の配布
 - ・環境学習用冊子・教材「水辺の生きもの」冊子の作成・配布、下敷きの配布
 - ・環境学習用冊子「大切な大気のはなし」の配布



大切な大気のはなし

1.3 国際展開・環境技術情報業務

(1) 国連環境計画（UNEP）等との連携事業

「第15回川崎国際エコビジネスフォーラム」の開催（2019年2月7日）

(2) 環境技術情報の収集・発信

- ア 環境技術情報ポータルサイトの運営
- イ アーカイブスペースの管理・運営
- ウ 出張展示

(3) 中国瀋陽市との連携・協力

- ア 第21期瀋陽市環境技術研修生の受入れ
- イ 中国大気環境改善のための都市間連携協力事業

(4) 海外からの環境技術に関する視察・研修の受入れ

2018年度視察受入数：中国、インドネシア共和国、イラン、ミャンマー、アルジェリア、ボスニア、タイ、韓国、モンゴル、イラン、インド、マレーシア、フィリピン、ベトナムなど21件（232名）

1.4 国際連携・研究推進業務

(1) 国際貢献の推進に向けた研究

- ア マレーシア国ペナン州「Waste to Energy 技術」による低炭素都市形成支援事業
- イ インドネシア共和国バンドン市との国際連携の構築に基づくグリーンイノベーション及び技術移転を通じた国際貢献の推進事業
- ウ 本市の特性を活用した都市間連携によるアジア諸国の環境問題解決に向けた技術・社会システムの構築

(2) 低炭素都市に係る総合的な研究

- ア 市内の国立研究開発法人が保有する優れた技術を基にした技術開発共同研究～途上国の温暖化対策・砂漠化防止に貢献～
- イ 市内企業が保有する優れた技術を基にした技術開発共同研究～本市と覚書にて連携する途上国への導入予定機器運用上の課題を解決～

(3) 環境施策に係る総合的な研究

環境配慮型新ライフスタイル提案のための新たなアプローチ手法の開発と適用に関する研究

2 都市環境課

2.1 都市環境研究業務

(1) 地球温暖化対策に関する調査研究

- ア 気候変動への適応策に関する調査
- イ 市内の気温や降水量などの気候変動の現況に関する調査研究

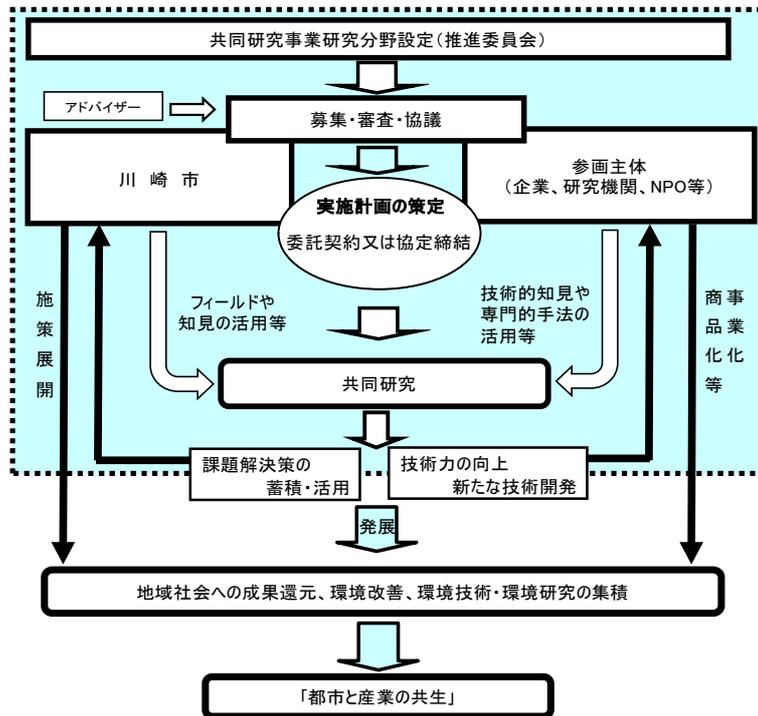
(2) ヒートアイランド現象に関する調査研究

- ア 気温分布に関する調査
 - 一般環境大気測定局9地点のデータ活用に加えて生田緑地内にて気温の測定を実施
- イ 熱中症と気温との関係に関する調査研究

2.2 産学公民連携業務

(1) 環境技術産学公民連携共同研究事業

2018年度の共同研究事業は、7件（公募型共同研究事業3件、連携型共同研究事業4件）を実施



環境技術産学公民連携共同研究事業の流れ

ア 公募型共同研究事業

毎年度公募を行い、選定した研究テーマについて、委託事業として実施する共同研究事業

(ア) 微細藻類の新大量培養システムの研究開発

(共同研究者：学校法人東京薬科大学 研究期間：2016年度～2018年度)

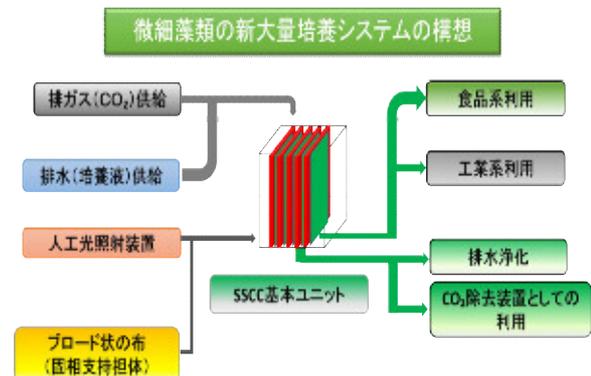
学校法人東京薬科大学（東京都八王子市）と本市は、微細藻類の光合成機能に着目し、2016年度から東京薬科大学らが開発した“微細藻類の効率的な培養によるCO₂固定化システム（固相表面連続培養システム）”の実用化に向けた研究を行っている。

2016年度は本システムの工場等への実導入を想定した設置環境を考慮し、市内の事業所から排出される実際の排水を培養液とすることで、微細藻類の一種である“クロレラ”培養の適否、CO₂の固定化、更には水質浄化効果（リンの除去）の検証を行った。

2017年度は複数枚の支持担体を有する円筒型ユニットの試作機を製作し、そのユニットにおけるクロレラの培養能力及びリンの除去能力について検証を行った。

最終年度となる2018年度は市内事業所からの排ガスを用いて、その排ガス条件下におけるクロレラ大量培養系を検証した。大型装置と可搬型装置の実用化に向けた取り組みを進め、実現のための具体的規模や課題をまとめるとともに、クロレラにおけるリン等の吸収能に着目して、市内池水の富栄養化要因物質（リン等）の回収・除去に係る屋外実証実験を実施し、本技術の多用途利用の可能性検証を行った。

今後、企業等の排ガス由来のCO₂の固定化やリン除去等の排水浄化を補助する装置として実用化され、環境改善に資することが期待される。



(イ) 環境エネルギーシミュレータを用いた再生可能エネルギー地域連携モデルの研究

(共同研究者：富士通株式会社 研究期間：2017年度～)



エネルギー地域連携モデルイメージ

富士通株式会社(川崎市中原区)と本市は、2017年度から、環境・地域特性に合わせた地域連携エネルギーシミュレーションを確立し、現状個別に取り組んでいる省エネ・創エネ及び再エネ利用を一定の地域内で平準化することによる地産地消の可能性について研究を行っている。

2017年度は、市内の再エネ設備情報等を収集し、それらをデータベース化・可視化するとともに、市内の気象情報等を考慮し、電力エネルギー需給に関するシミュレーションを行った。

2018年度は市全域におけるエネルギー連携シミュレーションモデルを精緻に構築するため、市内の特徴的な地区(オフィス街、商業地域、住宅地)を選定し、再エネ設備情報や施設情報等を収集・活用し、その地区におけるエネルギー連携

シミュレーションモデルの構築に向けて検討をした。

この研究により再エネの効率的な活用が可能となり、市内CO₂排出量の削減に資することが期待される。

(ウ) 人口減少社会におけるグリーンインフラとしての空地デザイン技術ならびに空地まちづくりの構想技術に関する研究

(共同研究者：学校法人工学院大学 研究期間：2017年度～)

学校法人工学院大学(東京都新宿区)と本市は、2017年度から、今後の人口減少社会において空地が環境問題となることを回避するために空地を新たに“グリーンインフラ”として、人が使えるものとしてデザインする技術及び“グリーンインフラ”の利活用手法について研究を行っている。

2017年度は、麻生区金程の公益用地において、雨水が地下に浸透し、地下水として保たれることを促すことで生物の生育を助長するとともに、緑化が人に与える効果を目的に、全面樹皮マルチング、スウェール及び季節感のある植栽などを配置したグリーンインフラのプロトタイプ(名称：カナドコロ)を整備した。その後、地域住民の理解、参加を図るため、現地でワークショップなどを開催し、プロトタイプに対する地域住民の期待・要望、課題等を把握した。

2018年度はカナドコロの更なる利用促進を図るため、継続的なマーケット開催とともに、スウェール、レイズドベッド等のグリーンインフラやフラクタル日除け等を整備し、暑熱環境に与える効果測定を実施するとともに、カナドコロの継続的な利活用に向けて、維持管理等の運営・マネジメント手法の構築に向けた検討を進めた。

この研究により緑を活かした公有空地の有効利用モデルとして横展開されていくものと期待される。



整備直前の状態



整備後



イ 連携型共同研究事業

多様な連携のスタイルに対応するため、2014年度に「環境技術産学公民連携共同研究事業に係る申請及び実施に関する要領」を改正し、新たに位置づけたフィールド提供を中心とした共同研究事業

(ア) ブラウンフィールドにおけるファイトレメディエーション導入の共同研究

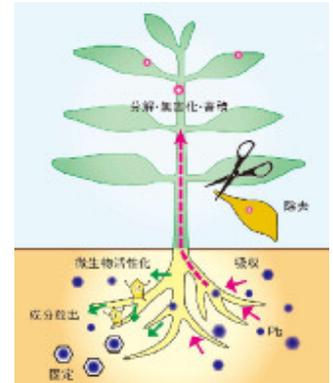
(共同研究者：学校法人五島育英会東京都市大学 総合研究所 応用生態システム研究センター
研究期間：2017年2月～)

学校法人五島育英会東京都市大学 総合研究所 応用生態システム研究センター（横浜市都筑区）と本市は、2017年2月に共同研究実施に係る覚書を締結し、植物を使った汚染土壌の浄化について研究を行っている。

この研究では、植物の育成環境に厳しいといわれる、地下塩水、潮風の影響を受けやすい臨海部地域を実験フィールドとし、「鉛」による汚染を土地の表層部だけでなく根の深い植物を用いて深さ方向にも着目した実証実験を行っている。

2016年度は臨海部地域における実証フィールドの検討を行った。

2017年度及び2018年度は市内臨海部地域の事業所と連携し、同事業所内のブラウンフィールドにおいて、複数の供試植物を育成・採取・分析し、鉛の除去効果等の実証を行った。



※ 図は王効華・李法雲・岡崎正規・杉崎三男（2004）：ファイトレメディエーションによる汚染土壌修復、埼玉県環境科学国際センター報第3号、pp.114-123 を基に作成

(イ) 溶融噴射式遮熱塗料の効果検証

(共同研究者：信号器材株式会社 研究期間：2017年8月～)

駐車を4色に塗り分けて色別の状況を調査しています



塗装の一部は川崎市のブランドメッセージのロゴをイメージした配色にしています。



信号器材株式会社（川崎市中原区）と本市は、2017年8月に共同研究実施に係る覚書を締結し、溶融噴射式遮熱塗料について研究を行っている。

この研究では、ヒートアイランド現象の緩和を目指し、独自の溶融噴射式カラー舗装の技術をベースに遮熱顔料を組み合わせたアスファルト路面用の遮熱塗料を開発し、その実用化に向けた実証実験を行っている。

2017年度及び2018年度はかわさきエコ暮らし

未来館駐車場において実際に遮熱塗装を行い、遮熱効果や耐久性等を検証した。

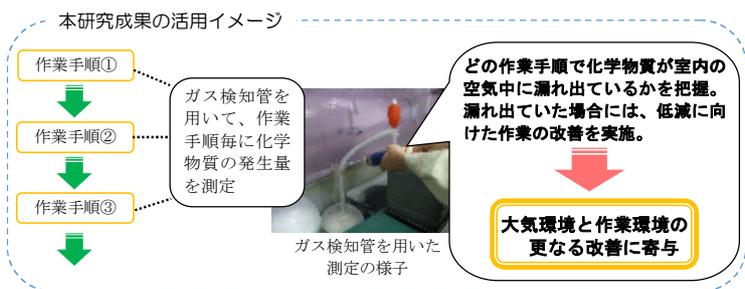
(ウ) ガス発生を伴う屋内・屋外作業が大气環境／作業環境に及ぼす影響についての調査研究

(共同研究者：光明理化学工業株式会社 研究期間：2018年5月～)

光明理化学工業株式会社（川崎市高津区）と本市は、2018年5月に共同研究実施に係る覚書を締結し、ガス発生を伴う屋内・屋外作業が大气環境／作業環境に及ぼす影響について研究を行っている。

この研究では、安価、短時間、かつ、簡易なリスクアセスメント手法の確立を目指している。

2018年度は市内企業における化学物質等の利用状況を調査するとともに、化学物質等のリスクアセスメントにおいて検知管を用いる手法の普及啓発を図るため、セミナーを開催した。



(エ) 鉍物油含有土壌におけるジニアによる植物浄化に関する研究

(共同研究者：学校法人明治大学 研究期間：2018年12月～)



学校法人明治大学（東京都千代田区）と本市は、2018年12月に鉍物油含有土壌におけるジニアによる植物浄化に関する研究実施に係る覚書を締結した。

この研究では、ジニアの生育に伴う根圏微生物の増殖・活性化及びこによる土壌中の油の分解・浄化効果を検証するものとし、2018年度はその効果検証のための実証フィールドの選定及びそれに係る実態調査を実施した。

(2) 共同研究事業に係るセミナーの開催（2回）

- ア 環境セミナー～最近、ニュースでよく聞く『2019年問題』、『ブラックアウト』って何？～（2018年12月21日）
共同研究内容の情報発信に加えて、関連するテーマの最新情報も提供するセミナーを開催。出席者55名
- イ 環境セミナー「産学公民連携共同研究事業の成果報告」（2019年3月20日）
2018年度に実施した共同研究事業の成果を報告するためのセミナーを開催。出席者43名

(3) 川崎国際環境技術展への出展

2019年2月7・8日に開催された川崎国際環境技術展2019へ出展し、産学公民連携事業について、これまでに実施した共同研究の事例紹介及び2018年度に実施した共同研究事業について情報発信を行った。

3 環境リスク調査課

3.1 環境化学物質研究業務

(1) 環境中の化学物質に関する調査研究

- ア 川崎市化学物質環境実態調査
- イ 市内化学物質環境実態調査に向けた分析法検討

(2) 水質汚濁に関する調査

- ア 工場・事業場排出水中のVOC調査
- イ 地下水及び土壌汚染に関する調査
 - ・汚染井戸継続調査（VOC）
 - ・土壌汚染地域周辺の地下水質調査（VOC）
- ウ 水質事故・苦情に伴う調査（農薬、油類、VOC等）

3.2 環境リスク評価研究業務

(1) 化学物質による健康影響に係る環境リスク評価に関する調査研究

- ア 化学物質環境実態調査
- イ 大気拡散モデルを用いた曝露評価に関する調査研究
- ウ 環境リスク評価手法の検討

(2) 環境及び発生源の有害大気汚染物質等に関する調査研究

- ア 揮発性有機化合物及び多環芳香族炭化水素類のモニタリング調査
- イ 揮発性有機化合物及び多環芳香族炭化水素類の臨海部平面分布調査
- ウ オゾン層破壊物質及びフロン類代替物質のモニタリング調査

3.3 生物学的調査研究業務

(1) 水質汚濁及び生物多様性に関する調査研究

- ア 公共用水域における水質及び水生生物生息状況調査
- イ 多摩川河口干潟及び東扇島人工海浜における生物及び底質調査
- ウ 遺伝子解析を利用した生物生息状況調査
- エ 水質事故・苦情に伴う調査（生物）

(2) 生物応答を利用した生態影響評価に関する調査研究

- 生物応答を利用した評価手法の検討

3.4 他機関との共同調査・研究

(1) 国立研究開発法人国立環境研究所と地方研究所等の共同研究（Ⅱ型）

- 「高リスクが懸念される微量化学物質の実態解明に関する研究」
- 「里海里湖流域圏が形成する生物生息環境と生態系サービスに関する検討」
- 「WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ」

(2) 神奈川県・横浜市との共同研究

- 「POPs等難揮発性化学物質の大気環境中における動態」

(3) 環境省受託化学物質環境実態調査（分析法開発及び環境調査）

4 地域環境・公害監視課

4.1 大気調査研究業務

(1) PM2.5の成分分析に関する調査研究

- ア 一般環境及び道路沿道における微小粒子状物質（PM2.5）の濃度実態調査
- イ 微小粒子状物質（PM2.5）の成分調査及び発生源寄与率調査
- (2) アスベストに関する環境調査
 - ア アスベストの一般環境調査
 - イ 建屋解体等に伴うアスベスト調査

(3) 酸性雨に関する調査

4.2 水質汚濁防止対策業務

- (1) 工場事業所排出水の水質及び工程調査
 - ア 工場・事業場排出水の水質調査
 - 工場・事業場の排出水に含まれる規制項目（VOCを除く）の水質検査
 - イ 工場・事業場における排水処理施設の維持管理に関する調査
- (2) 汚染井戸継続調査
 - ア 地下水汚染継続調査
 - 汚染井戸に関する水質（VOCを除く）の継続調査（特定有害物質等製造等事業所の地下水質調査、汚染井戸継続調査）
 - イ その他の地下水質（VOCを除く）調査

4.3 苦情・事故等に伴う調査業務

- (1) 大気・水質に係る苦情・事故等に伴う原因物質究明調査

4.4 環境大気常時監視業務

- (1) 一般大気環境常時監視測定
 - 一般環境大気測定局9局での環境大気常時監視の実施
- (2) 道路沿道大気環境常時監視測定
 - 自動車排出ガス測定局9局での環境大気常時監視の実施
- (3) 常時監視機器、測定局の維持管理
 - ア 測定局舎及び測定機器の維持・整備
 - イ 測定結果等の情報提供内容の充実
- (4) 原子炉施設周辺及び市内の環境放射能調査
 - ア 原子炉施設周辺の施設排水及び上水放射能濃度調査
 - イ 原子炉施設周辺の堆積物及び土壌放射能濃度調査
 - ウ 原子炉施設周辺の大気浮遊じん、定時降水及び月間降下物の放射能濃度調査
 - エ 原子炉施設周辺の空間ガンマ線量率調査
 - オ 原子炉施設周辺の放射線積算線量調査
 - カ 市内における空間放射線量調査
 - キ 市内における土壌放射性物質濃度調査

4.5 他機関との共同調査・研究

- (1) 関東地方大気環境対策推進連絡会 微小粒子状物質調査会議
 - 関東地域における微小粒子状物質等の実態把握
- (2) 神奈川県公害防止推進協議会 PM2.5 等対策検討部会
 - 県内における微小粒子状物質等の濃度及び成分組成調査
- (3) 川崎市・瀋陽市の都市間連携協力事業における PM2.5 共同研究

大気常時測定監視網



一般環境大気測定局 2019年3月末現在

地区	測定局名(設置場所)
大師	大師(川崎区役所大師分室)
田島	田島(田島支援学校)
川崎	川崎(市役所第4庁舎)
幸	幸(幸スポーツセンター)
中原	中原(中原保健福祉センター)
高津	高津(生活文化会館)
宮前	宮前(宮前平小学校)
多摩	多摩(登戸小学校)
麻生	麻生(弘法松公園)

自動車排出ガス測定局 2019年3月末現在

地区	測定局名(設置場所)
田島	池上(池上新田公園前)
川崎	日進町(都市機構川崎日進市街地住宅敷地内)
川崎	市役所前(市役所前)
幸	遠藤町(御幸小学校)
中原	中原平和公園(中原平和公園)
高津	二子(高津区役所道路公園センター)
宮前	宮前平駅前(上下水道局管理地)
多摩	本村橋(本村橋)
麻生	柿生(麻生消防署柿生出張所)

